



挑戦・変化!! 裾野高校

令和6年度 五龍祭 開催

「令和6年度 第64回 裾野高校 五龍祭」が6月5日(水)から7日(金)までの3日間開催されました。

今年度のテーマは「**新時代 創造を超える青春を**」。
創造には「新しいものを作り出す」という意味があります。誰にも作れそうにない、想像できないものを作り出してほしいという思いから「創造を超える」とし、さらにレベルアップした五龍祭にしたいという意味を含めました。



五龍祭 文化の部

「文化の部」は6月5日(水)と6日(木)の2日間に行われ、1日目は校内でのステージ発表、2日目は一般公開を行いました。



1日目の校内発表は2部制で行われ、午前の部では、開会式に続いて各クラスが作成した「クラスCMコンテスト」と「クラスTシャツコンテスト」が行われました。各クラスとも趣向を凝らした内容で会場を大いに盛り上げました。午後の部は有志によるステージ企画で、歌やダンスが披露され、盛り上がりも最高潮になりました。

2日目の一般公開は、文化部の発表とクラス展示・模擬店販売が



行われました。クラス展示は五龍祭のテーマ「創造を超える～」をうけて、「物語」を表わしました。新しい物語を創作したり、今までの解釈とは一味も二味も違った解釈を表現していました。また物語に因んだ商品も販売しました。

1日目の校内発表は2部制で行われ、午前の部では、開会式に続いて各クラスが作成した「クラスCMコンテスト」と「クラスTシャツコンテスト」が行われました。各クラスとも趣向を凝らした内容で会場を大いに盛り上げました。午後の部は有志によるステージ企画で、歌やダンスが披露され、盛り上がりも最高潮になりました。



行われました。クラス展示は五龍祭のテーマ「創造を超える～」をうけて、「物語」を表わしました。新しい物語を創作したり、今までの解釈とは一味も二味も違った解釈を表現していました。また物語に因んだ商品も販売しました。



五龍祭 体育の部



「体育の部」は、絶好のコンディションのもと、クラス対抗形式で競い合いました。お揃いのTシャツに身を包み、一致団結して、全員リレーや長縄跳び、代表者によるクラス対抗リレー等の種目を行い、絆を深めました。またエキシビションで行われた部活対抗リレーの男子運動部では、ガチンコ勝負でバスケットボール部が優勝しました。



3日間を通して、充実した「五龍祭」が開催できました。改善すべき点も多々ありましたが、その改善点の中に「想像を超える創造」のヒントがあると思います。

若い生徒らの想像・発想は無限であり、それを形に創造するのは大変難しいことです。しかし、それに「挑戦」することは、何物にも代えがたい価値あることだと思います。

来年の「五龍祭」に大いに期待します。

7・8月の予定

7月2日(火)～4日(木) 期末テスト
10日(水) 思春期講座(1年)
22日(月) 薬学講座
24日(水) 終業式

8月7日(水) 全校登校日
8日(木) 中学生一日体験
20日(火) 県総合学科研究大会
24日(土) 北駿4校合同説明会



ホームページが
新しくなりました



裾高バカッ vol.3

高校総体東海大会

令和6年度高校総体(インターハイ)東海大会陸上競技が、6月14日(金)から岐阜県岐阜メモリアルセンター長良川競技場で行われ、男子ハンマー投と円盤投の二種目に、本校陸上競技部3年の高荷怜央が出場しました。

☆陸上競技部

(一内学年)

高荷怜央 無念の8位!!

目標の全国総体まであと一歩

◇男子ハンマー投 **8位** 高荷怜央(3) 51・60 m

円盤投 18位 高荷怜央 34・23 m



試合後、高荷怜央(右)から後輩の岩田悠(左)にバトンは渡された

腰痛を抱えての出場のため、すべてを一投目に託した結果、予選を1cm差の8位で通過し、決勝へと進むことができた予選7位とも1cm差。

全国総体へは6位以内のため、8位の高荷は一投も無駄にできない状況となっていました。腰の状態は限界に近く、最後の一投もそれまでの記録を上回することはできず万事休した。

高校総体静岡県大会

☆陸上競技部

(一内学年)

高荷怜央 ハンマー投と円盤投で東海進出!!

岩田悠は自己ベスト更新

◇男子ハンマー投 **2位** 高荷怜央(3) 51・45 m

同 12位 岩田悠(2) 37・81 m

円盤投 **5位** 高荷怜央 36・83 m



東部大会での腰痛が回復し、練習の感覚も上々で臨んだ県大会でしたが、新人戦で県大会優勝していたので、負けられないというプレッシャーにタイミングのズレが出てしまいました。悔しい、本当に悔しい結果です。

☆柔道

◇男子団体 ① 裾野0-5 東海大静岡翔洋

団体戦は5人編成なので、3人での出場の本校にとつては全員が勝たなければならないという厳しい戦いでした。相手は強豪校でしたが、果敢に攻めの姿勢を貫き、全力で勝ちにこだわりました。

☆テニス

◇男子団体

① 裾野2-1 新居

ダブルス 〇7-5

シングルス 1〇0-6

シングルス 2〇6-1

② 裾野0-2 藤枝東

ダブルス 〇4-6

シングルス 1〇0-6

◇女子団体

① 裾野0-2 城南静岡

シングルス 1〇0-6

シングルス 2〇0-6

男子は、最後の大会で目標としていた団体戦1勝を成し遂げることができました。

高荷怜央の「挑戦」

陸上競技と生徒会長

高荷の挑戦は、ひとまず終わった。高体連主催の大会は高校総体東海大会で終わりを告げた。中学時代は砲丸投げで東部2位に入賞することができた高荷は、高校では円盤投げに取り組みうと思っていたが、当時の顧問の先生にハンマー投げを勧められた。見様見真似で投げた最初の公式試合は21・05mだった。

ここから高荷の挑戦が始まった。

技術の習得と体幹を徹底的に鍛え、1年後の総体東部大会で45・05mで2位、県大会でも45・95mで6位入賞し東海大会まで進んだ。

飛躍的に記録を更新し続けていた2年生の6月に、高荷はもうひとつの挑戦を試みた。それは裾野高校生徒会長就任である。生徒会長ともなればその活動は放課後であり、必然的に部活動の時間は短くなる。また、生徒会最大の行事である学校祭の時期と、陸上の試合が重なってしまう。そのことに関して不安はなかったのかと尋ねると、

「自分次第でどうにかする」と答えた。結果は、陸上競技では東海地区で8位入賞。生徒会長としては「五龍祭」を成功裏に収めた。高荷怜央の最大の「挑戦」は、

自分自身だったのかもしれない。(文責 水口和典)